

ラグビー部

マネヂャー吉田記

春の部

我々は最後の花を飾るべき學年となつた。

吾等の胸には先輩諸兄の築き残されたる輝しき偉業を受けついで、母校の爲に、先輩の爲に、又我々の爲に榮冠を勝ち得んと若き血汐の躍るに任せて、打倒秋工、目指すは甲子園へと、我々ラグビー部は日長き春の午後を一瞬の無駄なく、陽西山に沈む迄、公園のグラウンドに於て、汗みどろな猛練習が續けられた。血涙を共にせし、吾がラグビーを次に紹介するFWは昨年と同じ堅き前衛である。

たゞフッカーに新人の中野、中村兩君をもつて、名センターの工藤君を良く扶助し、第一線を堅めて居る。次にセカンドローは巨大にして、試合なれしたる智能と體力を有する主將の佐々木君と、強引で頑張家の濱田君と共に依つて満足されて居る。バックローも昨年よりの選手で經驗積まれ、且つ體のさばき巧な竹花君及長距離選手の阿部君を迎へて居る。

HBのスクラム、ハーフは勇敢巧妙なる眞館君と、敏速な藤村君とに依つて成つてゐる。

スタンドオフの菅野君は機敏で精巧な動作の持主である。

TBは昨年來の選手であり、又短距離選手の瀧澤及川村兩君を迎へ、それに次ぐ四年の若山相田の兩君の妙技快足を有して、バックラインを堅固ならしめて居る。

最後のFBの中島君は體軀巨大にして且つ快足長軀の主で、その上怪力の所有者であるからラーガーとして申し分がない。

此のメンバーを持つてしたならば、我等に向ふ敵なしと信ずる所である。

然しながら、こゝに春の部として甚だ遺憾なのは、對土崎戦に思ひもよらぬ不覺をとつたことであつた。吾々は土崎に敗れた。然し五年生は試合當日即ち六月十四日迄續けられた所の工兵第八聯隊の兵營生活のあの猛烈なる教練で、疲勞して居た故もあつたことを我々は知らねばならない。

土崎	14	5	0
	4	—	6
	6		
岩中			

經過
前半

にじみぬ先輩の涙と汗の乾かぬ日詰小學校に於て二十七日より一週間、吾には地獄の穴をくぐりやうな、そしてあの炎熱のしねり殺されるやうな太陽の下にて汗みどろの練習をした。又さうかと思へばざあ／＼雨の降る中を先輩の歴史をきづつけまいと、そして榮ある甲子園を目指しての猛練習をなしたのだ。兄よりも親しみをもつた尊敬してゐる戸島先生にコーチして戴いて、秩序ある正しい氣持のよい練習をなした。

春には土崎工場に對戦して敗慘の身となりし過ぎし春は、水の泡と消えし秋の盛中定期戦、秋田鑛專に備へるべき臥薪嘗膽そのものゝ練習をなしたが、爲に晴の檜舞臺に出場する時は自信も出來、優勝の二字が吾々を喜び迎へてくれるやうに思はれた。

それに吾々の練習は斯の如くに決めて練習をなしたのだ。

午前六時起床——七時朝食——九時より十二時迄練習、十二時半晝食午後二時三十分より六時迄練習、六時三十分夕食、九時消燈午前五時頃になると隣の養鶏場よりの「時の聲」で目をさまし、ホイッスルの一聲で吾々は兵營生活のやうにスツクと起き上る。が二日三日とたつうちに、體中が痛くて歩くにも容易でない。痛いなあ、苦しいなあなど、毎日起きる度の聲は、日課の復習のやうに思はれ、洗面して食事、八時半頃より仕度して九時ホイッスルの一聲にて餘り遠からぬ日詰小學校へ駐足。並居る兩側の家に響くスパイクのイボの地上に打つ音は底力があり、「岩中強し。」と云はんばかりに響いて氣持よく足並揃へて進むラグビー部員は小學校に向ふのである、着くと直ぐ三時間の練習だ。其の頃にはもう小學校グラウンドを一杯太陽が照りつけ、熱い酷暑が餘計に吾々をして疲勞させる。それに練習中は絶対に水は飲めぬのだ、でも皆終始緊張の中に三時間、氣も張り切つてゐる。元氣よく走り、飛び蹴る、すると體中汗でびつしより濡

れる。顔から汗は雨の様に流れ、顎から傳つて地上に落ちる、でも一寸の暇などは全々なく次から次へと練習、心臓の鼓動は激しく唸る。でもぶつづけ夢中で楕圓形のボールを見つめての練習、時間は一刻々と過ぎていく。

さうしてゐるうちに、吉報でもあつたかの如く、嬉しい練習やめのホイッスルの音は、我々の耳に傳はり青空高く響き渡る、用意してくれた水桶に其の時初めて水に咽喉をしたら「日詰の水はうまい」との聲はあつちこつちに起り、大きな手杓で一杯二杯—五六杯は普通だ。これで宿所迄の空腹を満して行くのだ。皆は今迄の疲勞の色は消へ、元氣百倍、揃つて合宿所に歸る。

晝食!!なんと美味しいだらう、感心しながら鉢の置代へをこそ、苦しきことに耐へ心棒強く、御飯ときては暑中五六杯をたいらげるといふ岩中ラガーの元氣よ。

三十分位してやつと晝食も漸次済み、室に寝ころんで詩吟を吟ずるもの、將棋をさしてゐるもの、本を讀んでゐる者、まるでお祭りみたいな賑かさだが、しばらくして讀書、詩吟を吟ずる聲はあたりに寝ころんでゐる人の

子守唄の如く聞へ、あたりは天國へと走つて行くのだ。まるで靜になりたゞ養鶏場の近くの工場の女の唄聲が微かに聞えるだけだ。眠りゐる彼等は寢言するもの、夢見て微笑するもの、様々だ。微笑してゐるものは、親から金を戴いた夢を見たのか、又飛び上るやうな嬉しい夢を見たか? かくして將棋の仲間だらう「好し。」「しまった。」「今度は俺だ。」などゝりきんで居る。

さうしてゐるうちに午後二時半もまたゝく間に來てしまふ。恨めしいホイッスルの嵐のやうな音に天國の夢は破れ、起き上がらうとしても氣ばかりだ、どうかこうかして起きて準備す。これから三時間半の練習かと皆氣力の衰へたやうな様子は少しも見えない。これから三時間半はなんでもない、四時間五時間位大丈夫だと、皆夢中で一分といへども惜しいやうに、タツクル、セービング、バスと次から次へ、氣持のよくやつてのける。緑白のユニホームはグラウンド色に化してしまひ、汗と土とで大變重くなる。でもかまつてゐる暇がない。唯々練習するのみだ。さうしてゐるうちに六時迄の練習は終りとなつてしまふ。

經過
前半、

岩中の佐々木のキックオフに依つて開始され、五分後調子が出ず、岩中陣ゴール前にて激戦苦戦漸時危険状態になる。盛中應援團の罵聲愈々盛んとなる。然しゴール前のタイトスクラムより球は岩中のFBを右へウキング迄パスされ敵のTBに依つて右タッチ外に押し出される、此の時より岩中軍のフェフティーンは調子衰れ、ぐんぐん敵陣の左タッチへ押し攻む。ラインアウト四五回繰り返す度毎に段々敵ゴトルに近づく。終に右ゴール前にせまる。實に惡戦激戦を續ける。終にキャリーバツクとなる。餘す所のタイム、十七・八分となる。然し兩軍依然としてノートライ。一進一退。ダンドラのユニフォームは色を無くし泥水で重くなる。敵陣二十五ヤード附近で混戦球は盛中軍に持たれ岩中軍押され氣味となり、我が陣廿五ヤード附近でスクラムを命じられ、泥球は敵のクォーターを右へウキング迄のパス、ゴール直前迄突進し終右タッチへ押し流してラインアウトとなる。

餘すタイム十分たらず、ラインアウトより十ヤード附近迄猛烈に突進す、敵の勇猛なる

セービングにて一時喰ひ止めらる。激戦中の球は岩中のバックライン左へパスされ、敵陣二十五ヤード附近の左タッチのラインアウト迄運ばれる。再び球は岩中へ渡り敵ゴール目懸て突進する好機會なり然し敵もさるもの終にキャリバックとする。然し再び直ぐにゴール前右タッチで二度ラインアウトの後、ゴールにせまる。スクラムを命ぜらる。吾がFW敵FWの力を越え球ゴールライン迄運ばれる。それをHBの藤村が被ひ込んで最初の一トライを擧ぐ。ゴールならず、3—0となる。

餘す所數分盛中軍のキックオフで始まる。兩軍のユニホームは泥で見分けがつかず、敵もさるもの一トライを返さんが爲に、死ぬものぐるひで猛進する。これには岩中軍もだちぐに押され、キャリバックに依つてハーフラインへ押し返す、然し又亂暴なる大きなドリブルで我が陣二十五ヤード左タッチのラインアウト迄進む。岩中軍押され氣味となる。其の場でタイトスクラムを命ぜられ、球は盛中のHBに入りゴールへ驀進。水煙が上る。猛烈なるFWのタツクルである。

終にゴール前のスクラムとなるゴール前は雨でコンデション悪くスパイク不能となり

終に押され盛中のバックローの駒嶺に依つてトライさる。ゴールならず。3—3の同點となつてハーフタイムとなる。雨は依然として止まず。後半、

盛中のキック岩中軍猛烈な勢で一息に敵陣二十五ヤード附近迄攻め、FWのドリブルの激戦右ゴール突入。然しドロップアウトとなる。然しそれに屈せず、チャンスを狙ふ。

盛中軍の勢は我軍の勢の上を越えて十分後敵に機會を狙はれ、それもドロップアウトで返す。然しキックは雨と泥で十二分に出來ず。

十八分後ハーフライン附近の左ラインアウトより、球は岩中へ、實に激戦苦戦後左ゴール前のスクラムより球岩中のHBに依つて右のオープンへ、カッティング敵のタツクルを惱し瀧澤、川村、相田とパス最後の若山にパスされるや否や若山猛烈な力で飛び込んでトライ、ゴールならず。

6—3と岩中斷然リードする。

盛中軍憤然としてトライを試みんとして、非常なる勢で驀進す。岩中次第々々に後去りして終にゴール前のタイトスクラムを命ぜらる。

岩中軍のフイフティーンは必死となつて守る

それに對する盛中軍も必死の攻撃だ。兩軍必死の勢、實に熱戦である、兩軍のFWは角と角とをかつちと組んだ鬪牛の如く互に一步も譲らず。

前後二回づゝタイトスクラムを命ぜらる。

もし岩中のFWが挫かれたら？

觀衆、應援團手に汗を握り傘より雨の中へ飛び出る。終ドロツプキツクの一蹴で危険帶を脱す、一退すれば一進す。再び二十五ヤード附近のラインアウト迄進む。残念にも主審のタイムアップの笛、雨の中に響き渡る。6——3の點で我が軍の主將の泥のユニホームの胸に勝杯は抱かれた、應援歌の中で駒ヶ嶺、佐々木の兩主將涙の握手を交す。

兩軍のメンバー

中 村野藤田木藤花 館村野 山田村澤 島
岩 中中工濱佐伊竹 眞藤菅 若相川瀧 中

FW HB TB FB

中 池口野藤内藤嶺 藤代井 部田林村 田
盛 菊田平谷堀工駒 佐小駒 阿下東川 吉

秋田鑛山専門學校對戰記

十月十七日この日天空朗らかに晴れ渡り絶好の秋晴に恵まれ我々は照りつける眞夏炎天下で肉を削り骨を打ち血のにじみ出る様な練習を重ねた岩中健兒の意氣を示す時が來た。

第一線に立つ者として若き代表者として英名天下に名をなして居る秋田鑛山専門學校我等は跨るに足る傳統と不朽の功績を有する岩中チーム。然し今年は必勝の實力があつた我々にとつては良き敵ぞと霸氣全身に満ち溢れ勇躍した。かくして試合の幕は岩中キツクオフにて午後一時、坂本主審吉田副審の下に醫專グラウンドにて行はれた。楕圓形の球は青空高く圓を畫きて飛んだ十五分位から鑛專の陣二十五ヤードあたりにて混戦を続けどしどし押して幾度かトライの機會を得たがドロツプキツクでかへされた。再び鑛專陣に押してゴール前五ヤード邊にせまつたとき岩中チャンスを得、佐々木君球を拾ひゴール目指して突進しゴール直前に、タツクルされんとした際濱田にパス、濱田ポスト直下にすべり込んでトライを擧ぐ、中島君のコンパート成る。

(岩中5——0 鑛專)

岩中軍、一トライで元氣百倍となる。

二十五分益々技術さえて來たが敵もさるもの必死の防禦陣をしいて之に對抗する、一進一退その中にハーフタイムとなる。後半。

中央のルーズの球岩中に出て、鮮かにTB線を瀧澤君、川村君とパス、川手君獨走ゆう／＼と敵陣に入る、ゴール成らず。

(岩中8——0 鑛專)

敵驀進して二十五ヤード附近で混戦、激戦觀衆の心膽を寒からしむ、四面寂として聲なしFWの密集、終にペナルテキツクに依つてゴール成る。

(岩中8——3 鑛專)

岩中軍屈せず戦ふ、密集の球鑛專へHBよりTBとパスされ終に右隅にトライされるゴール成る。

(岩中8——8 鑛專)

兩軍はこゝぞと凄じ熱で戦ふ。

二十五分、鑛專のFBのバンドは岩中二十五ヤードのラインアウトとなる、其の場のルーズより猛進に猛進をしHBよりTBへパス。

ゴール前五ヤード附近でルーズとなる、ルーズの球岩中のマスドリブルに依つて、ゴールに突進、球はサイドローに依つて保たれ、

竹花君に依つて辛勝の一トライを擧ぐ中島コンパート成る。(岩中13——8 鑽專)

兩軍メンバー

岩中
村野 藤田 木部 花 舘村 野 手池 村 澤 島
中 中 工 濱 佐 阿 竹 眞 藤 菅 川 菊 川 瀧 中

FW
根 田 田 澤 藤 田 本 城 木 澤 島
中 關 前 豐 小 柳 伊 金 野 秋 岩 鈴 尹 藤 小

鑽專
天高く馬肥ゆる十月十九日北日本に名をなして居る仙臺地區白青のユニホームに卍字のマークをつけた梅檀中學ラグビー部は秋田遠征の歸途突然來盛した此の日天候悪く非常に寒かつたにもかゝらず試合は戸島先生主審飯塚太田副審の下に醫專グラウンドに迎へ三時五十分極めて緊張の中に梅檀キツクオフにて行はれた。然し我々部員にとつては數日前の試合にて疲勞して居つたが輝しき先輩諸兄の殘されたる偉業をつぎて母校のために先輩の爲に榮ある冠を勝ち得んと躍り立つ時は今だ必ず勝つと重き任務を持つて戦つた。

梅檀中學對戰記

前半に於て岩中一トライをあげ3——0とリードす後半岩中ポスト直下にトライゴールなる十五分岩中再び眞舘に依つて一トライをあぐ。(11——0)

經過
前半、十分後ハーフライン右タッチ附近のタイトスクラムの球岩中へHBに依つてTBを左へパス二十五ヤード附近のタイトスクラム迄突進球はHB藤村に其の場から飛び込んでトライ。ゴールならず。(3——0)

二十五分敵驀進右ゴール直前のスクラムとなる。球は梅檀に出て左ゴール直前で混戦岩中危険となる然し濱田に依つてグランデイングされドロップアウトとなり前半終る。

後半……岩中の先蹴で開始。
十五分後、中央ルーズの球岩中HBにて左へTBの川村にパス川村獨走カッテング敵TB線を切り抜けてゴール直下にトライゴール成る。(8——0)

十八分後敵陣四十ヤード附近のラインアウトの球FWの竹花にフライングー竹花直にHBの眞舘にパス眞舘タッチに沿うて獨走飛び込んでトライをあぐゴール成らず(11——0)

兩軍メンバー

岩中
村野 藤田 木部 花 舘村 野 村山 手 澤 島
中 中 工 濱 佐 阿 竹 眞 藤 菅 川 若 川 瀧 中

FW
梅 檀 中
寺 田 田 藤 岡 司 山 島 野 端 藤 井 藤 崎 葉
小 矢 武 工 吉 庄 萬 福 今 川 加 駒 佐 松 千

我等ラグビー部は此の戦を最後として幕を降すのは誠に残念である。
吾々は四戦して三勝一敗と云ふ成績を残したことは云ふに云はれぬ残念さである。

吾々は機會を作れずして空しく此處に希望を捨てることを餘儀なくされた。
諸弟よ!!吾等の跡を通らぬ様注意し、努力に努力を重ねて、吾々の志をつぎて北日本の岩中ラグビーにあらずして日本の岩中ラグビー部たらんことを、希望するものである。